

今年度の校内研究授業 その1 (二宮小学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は二宮小学校の実践を紹介いたします。

二宮小学校では、今年度、横浜国立大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻の青木弘教授を講師に迎え、「自ら進んで学び続ける子どもを目指して ~どの子どもも「分かった、できた、楽しい」を実感する授業づくり~」をテーマに1年間研究を行ってきました。学年・ブロックで共同で研究を行うことにより、教科や単元について話し合う機会も多くあり、教職員の教材研究の底上げにつながりました。

今年度は、1~6年は国語科を中心に、特別支援学級は自立活動や算数・社会など様々な教科で、専科は算数での実践が行われました。研究授業は、特別支援学級、低・中・高学年の4回公開しました。9月には、特別支援学級で自立活動3学級、理科・算数・社会・国語・総合的な学習の時間でそれぞれ5学級が公開しました。



特別支援学級 総合的な学習の時間

全体研究会では、「見通し」「環境設定」「教材」「声かけや接し方」という観点で、授業を振り返り、自分の学級にも使える技やアイデアを見つけていきました。

10月には、低学年ブロック2年生で、国語「お手紙」の研究授業を行いました。「叙述に沿った読み取り」や「音読」の大切さとともに、自由な発言の様子から学級の温かさなどの重要性が意見として出されました。11月には、中学年ブロック3年生で、国語「おすすめの1さつを決めよう」の研究授業を行いました。手立てとして提示された「学びのプラン」や「思考ツール」について、新しい視点として取り入れていきたいという意見や、教員の温かい声かけのよさが出されました。

最後2月には、高学年ブロック6年生で、国語「海の命」の研究授業を行いました。中学年ブロックで出された「学びのプラン」を実践し、「自由進度学習」、考えを形成するための「ヒントカード」など、新たな挑戦も全体研究会での話題となりました。



2年生「お手紙」



3年生「おすすめの1さつを決めよう」



6年生「海の命」

今年度、様々な手立てを各学年が実践したことで、来年度にもつなげていきたいものを今後話し合っまとめていきたいと考えています。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/000000929.html>

